

情報連絡員報告総括表（令和6年4月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況		
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化
製 造 業	食料品	2	2		1	3			4		1	3		1	3			4		2	2			4			4	
	繊維工業		2	1	1	1	1	3			1	2			2	1		3			3			3			2	1
	木材・木製品			1		1				1			1			1		1				1		1				1
	紙・紙加工品			2		2		1	1		1	1			2			2				2		2			2	
	印刷		1			1			1			1				1		1				1			1			1
	化学・ゴム																											
	窯業・土石製品		2	1		3		1	2			3			2	1		3			3			3			2	1
	鉄鋼・金属			1		1			1			1			1			1			1			1			1	
	一般機器		3		1	2		2	1			3			1	2		2	1		2	1	1	2			3	
	電気機器			1		1			1			1				1			1		1			1				1
	輸送機器			1			1			1		1				1			1			1			1			1
その他																												
	小計	2	10	8	3	15	2	7	11	2	3	16	1	1	11	8		17	3	2	12	6	1	17	2		14	6
非 製 造 業	卸売業	1	1			2		1	1			2			1	1		2					2			2		
	小売業	1	2	3		5	1	3	3			5	1		3	3		5	1				6			3	3	
	商店街	1				1		1				1			1			1						1			1	
	サービス業	1	3						4			4			3	1		3	1				3	1		3	1	
	建設業	1	2	1				1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1				3	1		3	1	
	運輸業		1						1			1			1			1					1			1		
	その他	1	1					1	1			2		1	1			2					2			2		
	小計	6	10	4		8	1	7	12	1	1	17	2	2	12	6	1	16	3				17	3		15	5	
	合計	8	20	12	3	23	3	14	23	3	4	33	3	3	23	14	1	33	6	2	12	6	1	34	5		29	11

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和5年4月～令和6年4月)

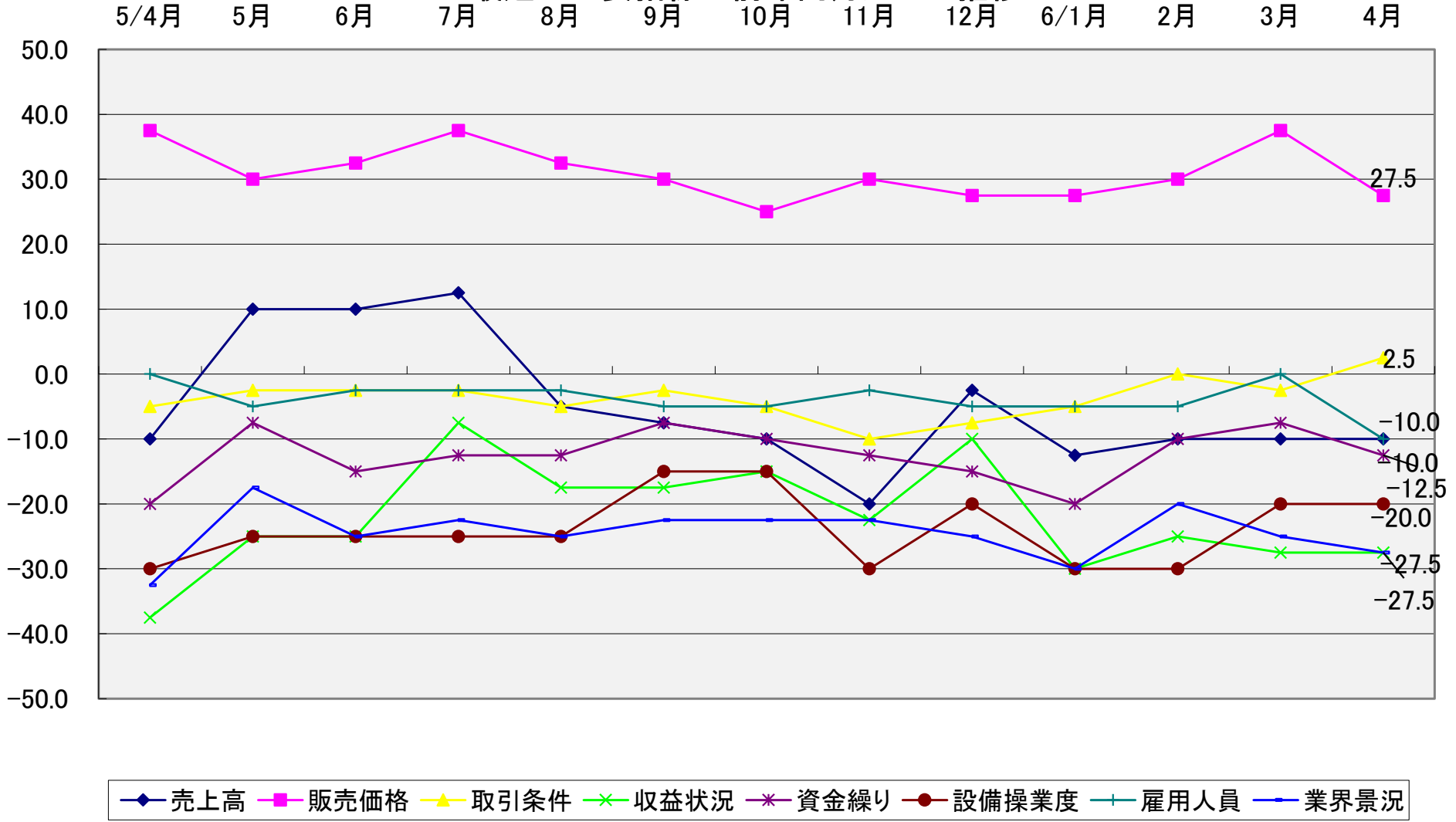
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	5/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	6/1月	2月	3月	4月	増減
売上高	-10.0	10.0	10.0	12.5	-5.0	-7.5	-10.0	-20.0	-2.5	-12.5	-10.0	-10.0	-10.0	0.0
販売価格	37.5	30.0	32.5	37.5	32.5	30.0	25.0	30.0	27.5	27.5	30.0	37.5	27.5	-10.0
取引条件	-5.0	-2.5	-2.5	-2.5	-5.0	-2.5	-5.0	-10.0	-7.5	-5.0	0.0	-2.5	2.5	5.0
収益状況	-37.5	-25.0	-25.0	-7.5	-17.5	-17.5	-15.0	-22.5	-10.0	-30.0	-25.0	-27.5	-27.5	0.0
資金繰り	-20.0	-7.5	-15.0	-12.5	-12.5	-7.5	-10.0	-12.5	-15.0	-20.0	-10.0	-7.5	-12.5	-5.0
設備操業度	-30.0	-25.0	-25.0	-25.0	-25.0	-15.0	-15.0	-30.0	-20.0	-30.0	-30.0	-20.0	-20.0	0.0
雇用人員	0.0	-5.0	-2.5	-2.5	-2.5	-5.0	-5.0	-2.5	-5.0	-5.0	-5.0	0.0	-10.0	-10.0
業界景況	-32.5	-17.5	-25.0	-22.5	-25.0	-22.5	-22.5	-22.5	-25.0	-30.0	-20.0	-25.0	-27.5	-2.5

(注1) 「D I」はディフェーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製 造 業	食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足があり、また、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、特に電気代の値上がりが、経営を圧迫する状態が続いている。また生鮮食品の値上がりの影響により、野菜価格も値上がりしており、原料野菜への影響も始めている。今年度よりJA多気郡で伊勢たくあんの振興に向けた取り組みを進めている。5月9日に第52回通常総会を予定している。
		醤油味噌	事業活動に大きな変化はなく、受注・生産は安定している。ただし、円安の進行で原材料のさらなる高騰が心配である。コストアップに値上げのスピードがついていかない。昨年の三重県内のしょうゆの出荷量は前年比96.3%、味噌の出荷は前年比100.7%であったが、金額では前年を上回った。春闘で大手企業は昨年以上の賃上げを実施しているが、中小事業者は大手ほどの賃上げはできず、人材の確保がますます厳しい状況になってきた。GWを前に注文の締めが早まり物流業界の2024年問題が影響している。
		他に分類されない食料品 製造業	新年度が始まり、心を引き締めていかなければならない。引き続き、継承問題、役員のこと、工場修理等いろいろなことを進めていかなければならない。4月よりパート3名の社会保険加入、時給アップを実施した。HACCPに沿った衛生管理の意識を今まで以上に持たなくてはならない。
		製麺	4月10日に4年ぶりにロングライフ伊勢うどんの製造者の皆様より試食品をいただき、12名程で試食会を開催した。三重県は北から南までの業者があり、北勢方面から南勢方面に向けて麺の触感が柔らかくなっていることを試食を通じて感じた。太さも南勢から北勢に比べて太くなっています。太さや柔らかさもそれぞれ特長があったことを今後の課題としていきたい。
	繊維工業	衣料縫製	販売価格上昇による加工賃のアップにより売上が伸びたものの、人件費も今後かなり上昇していくので、どこまでこの効果が続くのか不安な要素も多い。
	木材・木製品	木材	円安の進行と物流の2024問題により燃料費、輸送費等のコスト高騰が経営に影響している。
	紙・紙加工品	木材チップ	原材料価格が高止まりしているため原料確保が課題である。
		古紙	4月の古紙仕入量：段ボール・約99±3%、新聞、チラシ・約90±4%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約88±5%である。メーカーも上げ馬祭りもお開きとなり中小零細企業では賃上げどころか2024年の運送問題でも困難で実質物価上昇に伴う値上げの折衝は経営者の実質的にも精神的にも負担となるが、努力して認めていただく以外に方法がない。段ボール原紙の5円の値上げが2回実施されて1ドル125円から比べると対ドル為替も一時160円の30円以上の円安となりつつも国内段ボール古紙の価格は一部のお取引先様各位で昨年と同じ水準に根戻しとなったが製紙主原料のパルプ価格と比べると4分の1以下の水準のようである。有名観光地や大都市圏ではインバウンド効果があるようで人手不足の中で更に大変忙しいため同業者等の行政等入札古紙仕入れ価格は国内価格では仕事が取れない。補欠選挙も終わり政治資金の透明化と公私を分けてのお金の利用と国民や企業並みの税務調査を望む。古紙の持ち去りは続いており問題が解決せずゴミ等の置き去りや古紙や古着の持ち去りの行為等は連休中にも発生し続けている。
	印刷	印刷	三重県より受託している三重県民手帳の売上から（公社）三重県緑化推進協会へ収益の一部を寄付した。昨年3月に9社の組合員の脱退があったが、この3月末においても1社脱退となった。新規加入がなかなか無い中、会費のみでの運営が厳しくなっている。資材費上昇の波はピークを越えた感があるなか、労務費の転嫁はどこも厳しい。また資材費の価格転嫁においても、値上げ交渉を行うと、他社で見積を取る傾向が強く、なかなか値上げに踏み出せない。
	窯業・土石製品	伊賀焼	各組合員の状況は忙しいようである。しかし、原材料費、光熱費が徐々に値上げされることにより、価格への反映に頭を悩ませている状況である。
鉄鋼・金属	鍍金	業界の生産額は、前月よりもやや減少している。EV関連の受注が頭打ちとなる一方、従来のリレー部品がやや戻ってきている。今後についても同様の状況が続くものと思われる。	

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
	一般機器	四日市市	各企業により濃淡があるが需要、業績は停滞気味である。これまでの半導体不足や紛争の影響の他に急激な円安、あらゆる物価の上昇も響いている。販売価格が上昇できても経費の転嫁のみで人件費上昇分を反映させることが難しいことと、給与UPでも人が集められない影響もみられる。日経平均高値更新や大企業の賃金上昇といった報道もされ、デフレからの脱却、インフレが明確となってきた。中小企業も物価、賃金上昇分を含めた価格に反映できた上での需要増につながっていくことを期待したい。
		津市	売上は昨年より増加しているが材料価格が上がっているためのものであるため、実質は良くない。また、政府が賃金アップを推進しているため大手の得意先に交渉しているがほとんど反映してもらえず、中小企業は賃金アップが難しくなっている。電気代も高止まりで物価だけが上がっているのですます収益は悪化の方向に向かっている状況で先行きが期待できない。
		伊勢市	同じ状況が続いている。材料価格、仕入価格の上昇分の値上げは認めもらったが、受注そのものが低調で、先行きの見通しは相変わらず不透明の状況である。自動車関係の落込みは大きく、設備投資も抑え込まれている。収益状況も引き続き悪い。
	電気機器	鳥羽市	3月後半から4月中は受発注の動きが少なく80%程度の稼働率であり、今後上期の動向に期待している。
	輸送機器	伊勢市	中国との関連が多いところでは、景気悪化の影響が顕著であり、物量減少、収益環境悪化となっている。収益環境が厳しい中、賃上げ回答は大企業中心に満額回答が多く、その対応が必要な状況にある。賃上げの価格転嫁は公開指標でなく、自社ベースアップ分を適用するような要請もあり、産業界全体の賃上げ実現には、自社負担が増大、赤字も視野に入れる必要が出ている。
		青果	野菜前半：天候は不安定だが徐々に気温が上がり荷動きが回復し、価格も落ち着きつつあり、長野県産アスパラガスは入荷のピークを迎え価格も安くなっている。ブロッコリーもやや値下がり、愛知県産キャベツの入荷が少なく高値が続く徳島県産ニンジンも悪天候で値上げしている。 野菜後半：地場産タケノコの入荷が順調で今がお買得である。新玉ねぎも入荷が増、安値になった。ミニトマトの入荷も順調で価格も安値、愛知県産キャベツ、宮崎県産、高知県産のキュウリは入荷が少なく値上げした。 果物前半：いちごは入荷量も増えようやく値下がりがみになった。人気の長野県産、山形県産のサクランボの入荷が始まった。熊本県産アンデスメロン、スイカも順調に入荷、宮崎県産マンゴー等初夏の味覚が勢ぞろいしている。 果物後半：いちごは少しずつ値を下げ、月末には更にお買得になった。県内産デコボンも終盤になり価格は横ばい、熊本県産アンデスメロンの入荷が増えてきたが例年より小ぶりのものが多い。
	小売業	自転車	新学期が始まり、春の需要を終えて各ショップは一段落を迎えた。令和5年度(3月末)、三重県内の自転車防犯登録台数は昨年比3,062台減少の57,006台となり、その内の新車販売台数は5万台を割った。これは過去統計を取り始めた1990年以後最悪の数字を示しており、電動アシスト自転車は多少増加はしているものの少子化による新入生の減少と高齢化による自転車離れが原因だと思われる。努力義務化になっている自転車乗車中のヘルメット着用に関して、ヘルメットは順調に入荷してきているが、県内の着用率は30%にも届かない状況である。会員の皆様には自転車の安全教育とユーザーへのヘルメット着用をお願いしたところである。
		電器	業界の動向としては引き続き、原油高や円安の影響で商品の価格は仕入れ実販にも影響が出ており、売れ行きは今一つのところである。必要以上の商品を求めないのか、世間の話題性も含めて購買意欲が弱いようにも感じる。県として省エネ家電購入応援キャンペーンが実施され、これからの動きに期待している。
		石油	4月19日、令和6年度の「中小企業者に関する国等の契約の基本方針」が閣議決定された。本年度の基本方針では、令和5年度に改定された「中小石油販売業者に対する配慮」条項に変更はなく、「石油組合との契約が管内の燃料供給拠点の維持に必要な場合には、調達を費用対効果に優れたものとする」こと等を十分に検討しつつ、当該石油組合との随意契約を行うことができる」とされている。また、一般競争入札への地域要件の設定、分離・分割発注についても引き続き記されている。さらに、経済産業大臣より各都道府県知事宛に周知文書が発出され、この中で、災害協定に参加している中小石油販売業者に係る受注機会の増大に努めるように明記されている。この他に本年度では、労務費、原材料費、エネルギーコスト等の上昇に伴う契約金額の変更について適切に配慮するよう新たに盛り込まれた。これらにより、我々SS業界は官公需契約交渉において、上記により有利に進めたい。

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和6年4月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
商店街	熊野市	大型連休前半は比較的に出足は好調で、商店街内で開催された朝市イベントにも普段は見受けられない客が多かったように感じる。売上も出店された各店とも好調だったようで早い時間で売り切れ店も多数あったようだ。また昨年まではあまり見られなかったインバウンド客も今年は多く見られるようになった。
サービス業	旅館	春休みが終わってからは週末の宿泊が低調であったためか、宿泊料は上昇傾向で推移してきたがここへきて水をさされたようだ。対前年同月比は180%、2019年同月比は70%程度である。回復傾向に向いてはいるがインバウンドが来ていないところはまだまだ厳しい状況である。諸物価の高騰と人手不足による諸経費の増加等による収益性の低下もあり、新年度からも新たな支援策の実施が必要である。
	警備	コロナも空けて順調に受注されている。
建設業	総合工事業	令和6年度の国及び県の発注公共工事の県内建設企業の受注高は、前年度を下回る結果となった。経常利益率についても2年連続の減少となる見込みである。4月から始まっている建設業の時間外労働の罰則付き上限規制についての具体的な対応策がない中、建設現場の生産性の低下による経営環境の悪化が懸念される。
	内装工事業	新年度ということもあり、例年売上は少ない傾向であるが、4月の売上は増加となった。ただし、4月から建設業へも働き方改革関連法が施行されることになり、我々末端の下請けは施工管理など現場の労働時間等非常に厳しい状況におかれることになる。
	水道工事業 (亀山市)	今年度も亀山市と漏水、量水器の2件について委託業務を受注した。量水器については取替件数が増加し、委託料が増加した。漏水についての見通しは今年度も前年度並みの完成工事高であると思われる。問題としては、働き方改革や労働賃金の値上げ等があげられる。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	他に分類されない食料品製造業	工業用LPガスの支援の案内をいただいているので、ありがたい。これからも情報や指導をお願いしたい。
食料品	製麺	5月には総会もあり、組合運営も人手不足であるが時代の流れに少しでも対応できるよう取り組んでいく。
繊維工業	衣料縫製	大企業より中小企業優先の補助金を出してもらえるよう国にお願いする。
一般機器	津市	政府は賃金UPをすすめているが、中小企業まで反映できていない。日本の企業は中小企業が最も多いので、その意見を聞いてもらえないのであれば今の政府は全く信用できなくなる。
サービス業	旅館	これから夏休みまでのオフ期対策として需要喚起策を是非とも計画していただきたい。